

ウダヤナ大学への協定留学 月例報告書 (2022年11月分)

留学先大学：ウダヤナ大学人文学部日本文学学科

氏名：森下千裕

日常生活について

相変わらずの雨季を健康的に過ごすために、模索していました。特に食生活の面では、普段食べている近所の食堂の料理や、配達での食事では、野菜を十分に摂ることができていないという心配がありました。そこで野菜を使った簡単な調理を試みました。私の下宿先の部屋にはキッチンが無いので、電気鍋一つで作ることができるメニューに限られてしまいますが、空芯菜を茹でてみたり、インドネシアの漬物を作ってみたりしました。普段の食事に一品野菜が加わるだけでも気分が違います。

大学生活に関して

先日バリ島で行われていた G20 の期間中は、原則としてすべての授業がオンラインで行われました。通常時でもオンライン授業が多いため、今月はほとんど大学に行くことがありませんでした。相変わらずグループワークが多いですが、近所のファストフード店に集まって作業をすることで、ようやく友人たちと会うことができました。

課外活動について

今月は踊りや楽器の練習のほかに、寺院での奉納舞踊・演奏に参加させていただく機会がありました。

奉納舞踊は、本番当日の2日前にお話をいただきました。こうした突然さは非常にバリらしくもありますが、少し戸惑いました。一緒に踊ったのは、私がいつもお世話になっている踊りの先生と、その先生と古くからの知り合いでかつて踊り手として活躍されていた方でした。事前練習は本番前の空き時間に一度だけ、ということにも緊張していましたが、それ以上にお二人の化粧と衣装の着付けを任されたことに緊張していました。バリ舞踊の衣装は、形になっていない布を身体に合わせて巻き付けて留めて着付けるため、緩くは着崩れてしまい、きつくは心地よく踊ることができません。今回はお二人にアドバイスをいただきながらなんとか着付けることができ、着崩れることなく踊り終えることができました。踊り以外にもたくさん学ぶことができました。

奉納演奏では、定期的に練習に参加している女性ガムラングループに混ざり、チェンチェンというシンバルのような楽器を担当しました。チェンチェン担当は、私を含めた女性メンバー三人と、助っ人の男子中学生三人の計六人で、それぞれが違うリズムを演奏します。こちらも、このメンバーでの事前練習はありませんでしたが、楽しく演奏することができました。



←インドネシアの漬物
アチャール acar を作りました。
水、砂糖、お酢、塩を煮詰めた液
に、お好みの野菜と、小さな赤玉
ねぎと唐辛子を入れて漬けます。



奉納舞踊

←今回のお話をくださったご家族と
一緒に。
↓古典舞踊を踊りました。



奉納演奏

↓チェンチェンという楽器を担当しました。
⇒メンバーの皆さんと一緒に。

